

UNDB-J

国連生物多様性の10年日本委員会
Japan Committee for UN Decade on Biodiversity



10年間の主な取組と成果



ごあいさつ



国連生物多様性の10年日本委員会
委員長 十倉 雅和
(一般社団法人 日本経済団体連合会 会長)

国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)は、2011年の設立以来「愛知目標」の達成を目指し、国、地方公共団体、事業者、国民および民間の団体など、国内のあらゆるステークホルダーと連携し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組みの推進等、多岐に亘る活動を展開してまいりました。この10年、関係者の皆様方のご協力とご尽力を得て、日本における生物多様性の主流化は着実に進展しています。今後は、後継組織として2021年11月に設立した2030生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)を中心に、ポスト2020生物多様性枠組や国家戦略の達成に向け、ステークホルダー間のさらなる連携構築、社会全体の行動変容の一層の促進に向けて活動して参ります。引き続き、ご関係の皆様のご理解とご協力をいただきたく、宜しくお願いいたします。

成果と今後の方向性

(1) UNDB-Jとしての学びと課題

UNDB-Jでは、中間評価を踏まえて策定したロードマップにおいて目指す社会像を共有し、各団体が取組を進めることができました。取組の中には一定の効果があり継続が求められるものだけでなく、改善が求められるものもあるが、セクター間で相互の状況を共有することで、各々の取組へのフィードバックや新たな連携の可能性を見出すことにつながった。また幾つかの企業ではこうした活動に対し 積極的な資金提供を長期に亘って行なう事例もみられた。

UNDB-Jという多様な主体が参画するプラットフォームがあったことにより、セクター間での連携・協働により相互理解が深化するとともに、自主的な取組の広がりが見られた。また、この10年間で各取組の内容にも進展があり、そうした成果を国際的に発信し認知されてきたことは大きな成果である。一方、UNDB-Jに参画していない組織等との協働は十分ではなかった。国の中核的なプラットフォームを担うべき組織としては、協働のさらなる裾野拡大が不可欠である。

(2) 自然と共生する世界の実現にむけて

一次世代へつなぐもの / 次世代への期待

生物多様性はあらゆる人間活動と関係していることから、より多くの主体が多様なセクターと連携・協働しながら、相互理解を深め、生物多様性を意識した活動に自主的に取り組んで行くことが重要となる。

生物多様性の新たな国際目標となるポスト2020生物多様性枠組に向けた国際的な議論においても、「生物多様性の主流化」は引き続き重要なテーマとなっており、UNDB-Jのような、次世代を担うユースを含むマルチステークホルダーで構成されるプラットフォームを立ち上げることが有効である。UNDB-Jでは普及啓発と構成団体による取組推進が中心的であったが、今後は構成団体以外の個別企業や個人にも行動を促していけるようなプラットフォームが期待される。

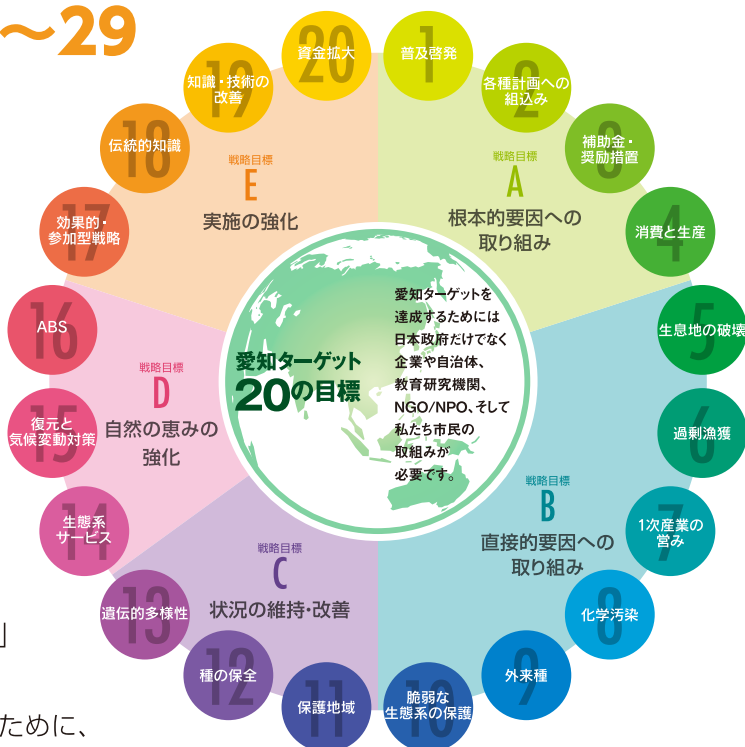
また、生物多様性への取組を通じて、様々な社会課題の解決に貢献することが求められており、生物多様性の取組を一層推進していくことが、SDGsの様々なゴールへの貢献につながるという視点が重要である。

UNDB-J 設立の経緯



2010.10.11~29

COP10/MOP5
(愛知県名古屋市)



愛知目標

2050年までの長期目標

▶「自然と共生する世界の実現」

2020年までの短期目標

▶「生物多様性の損失を止めるために、効果的かつ緊急な行動を実施」及び20の個別目標

2010.12



United Nations Decade on Biodiversity

国連総会において2011~2020年を「国連生物多様性の10年」と決定。愛知目標の達成に貢献するため、国際社会のあらゆるセクターが連携して生物多様性の問題に取り組む期間。



2011.9.1

愛知目標の達成に向けた各セクターの参加と連携による具体的な行動を推進することを目標に「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)を設立し、生物多様性の主流化を目指す。



生物多様性の主流化とは

愛知目標 1

遅くとも2020年までに、生物多様性の価値と、それを保全し持続可能に利用するために可能な行動を、人々が認識する。

主流化を図るため

広報・普及啓発、連携の促進、地域戦略策定、経済的価値の普及、教育・学習・体験、消費行動の転換

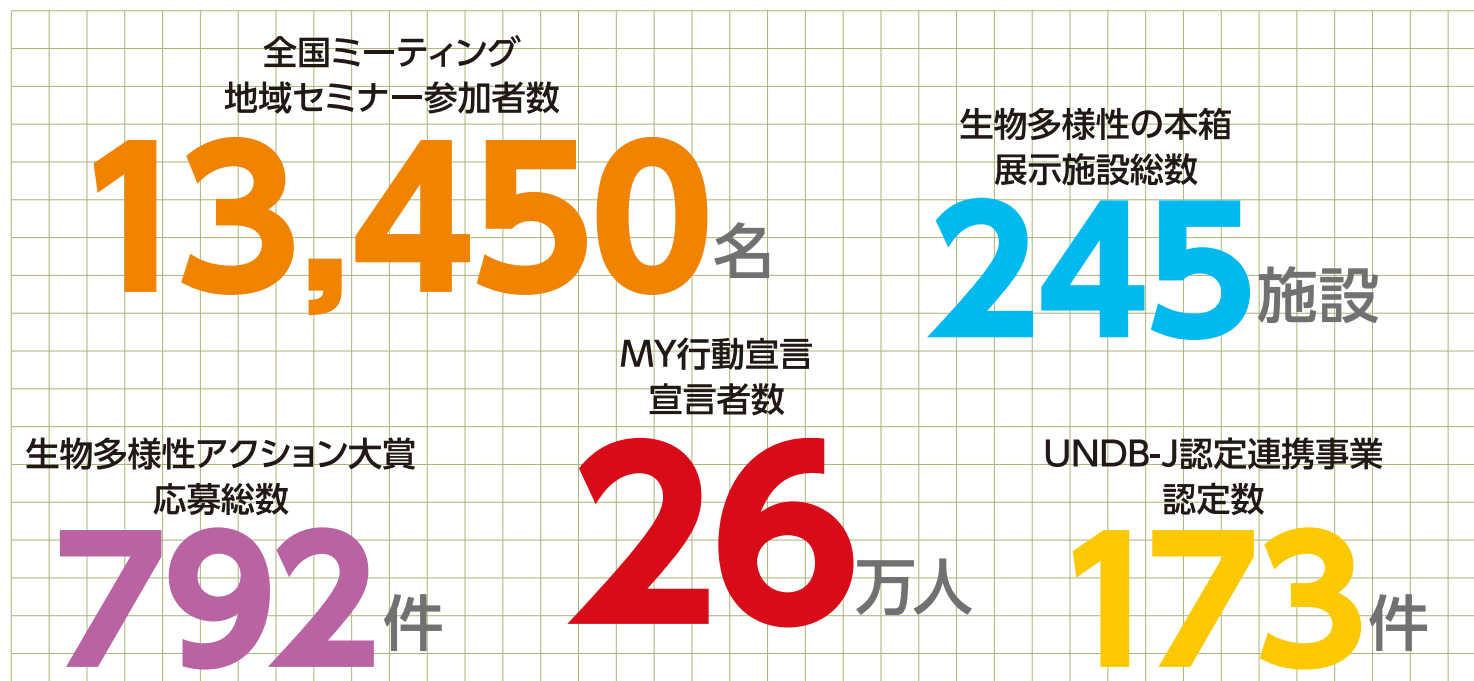
[2011年~2021年]

UNDB-J 10年間の歩み

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
委員会	第1回 9月1日(木) 	第2回 5月23日(水) 	第3回 5月23日(木) 	第4回 7月10日(木) 	第5回 6月18日(木) 
全国ミーティング	第1回 in名古屋市 10月29日(土) 名古屋国際センター 別棟ホール 	第2回 in横浜市 11月3日(土・祝) はまぎんホール・ヴィ アマーレ  真珠まりこ氏	第3回 in豊岡市 11月10日(日) 但馬地域地場産業振 興センター  参加者ワークショップ	第4回 in愛知県豊橋市 10月24日(金) 芸術劇場プラット  さかなクン	第5回 in滋賀県 11月6日(金) 大津市ピアザ淡海 ホール  涌井史郎氏
地方セミナー		名古屋市/福岡市 倉敷市/浜松市	熊本市/富山市 愛媛市	大分市/札幌市 大崎市	中間年フォーラム in東京
国際発信		6月 リオ+20 10月 COP11 インド・ハイデラバード	11月 アジア国際会議 仙台	10月 COP12 UNDB-DAY 韓国・ピョンチャン	

[2011年~2021年]

数字で見る UNDB-J 10年間の歩み



2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
第6回 6月23日(木) 	第7回 6月22日(木) 	第8回 6月21日(木) 	第9回 6月20日(木) 	第10回 6月24日(水) 	第11回 3月19日(金) 
第6回 in岐阜県 10月20日(木) ぎふ清流文化プラザ 	第7回 in神戸市 9月16日(土) 神戸国際会議場 メインホール 	第8回 in豊岡市 10月8日(月・祝) 鹿児島市中央公民館 	あいち・なごや 生物多様性EXPO 1月11日(土)・12日(日) 名古屋国際会議場 	UNDB-J 10周年 振り返りフォーラム 3月10日(水) オンライン開催 	「ポスト2020生物多 様性枠組みへの日本 の貢献～UNDB-J主 流化事例からのパ ンパス」 11月17日(水) オンライン開催 
岡山市/仙台市 東京	大阪市/東京	東京	(中止)		
12月 COP13 UNDB-DAY メキシコ・カンクン		10月 COP14 UNDB-DAY エジプト・シャルム・ エル・シェイク			

生物多様性の本箱寄贈総数
(全国47都道府県1カ所以上)

58 セット

せいかりレー
登録件数

47 件

グリーンウェイブ
参加者総数

26 万人

グリーンウェイブ
植樹総数

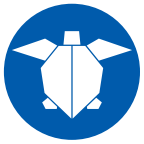
国際会議
ユース派件

10 名

33 万本

「生物多様性」認知度
R1年調査

51.8 %



MY行動宣言 5つのアクション

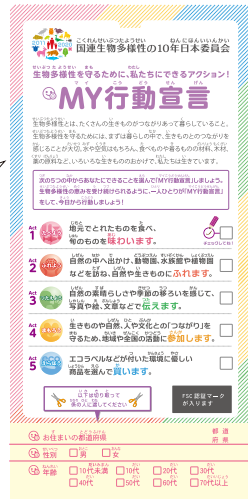
国民一人ひとりが生物多様性との関わりを自分の生活の中でとらえることができるよう、5つのアクションの中から行動を選択して「MY行動宣言」を行う。2021年3月時点で約26万人が宣言。

※ 関連ウェブサイト

<https://undb.jp/action/>



- Act 1 **たべもの** 地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。
- Act 2 **ふれもの** 自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。
- Act 3 **かんじ** 自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。
- Act 4 **まもろう** 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。
- Act 5 **かえりやさい** エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。



生物多様性 アクション大賞

生物多様性の保全や持続可能な利用につながる地域の活動を掘り起し、光を当てるため、MY行動宣言の5つのアクションに即した活動を全国から募集して表彰。

主催：国連生物多様性の10年日本委員会

共催：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

- 2013年から毎年実施
- 毎年100件以上の応募
- 2020年3月までに344件を表彰





委員会が推奨する 連携事業の認定

愛知目標の達成に向けた各セクターの参加と連携を促進するため、「にじゅうまるプロジェクト」等の中から、委員会が連携事業を認定。16回の認定を行い、173件の活動がUNDB-J認定連携事業となった。



にじゅうまる
プロジェクト
for Life on Earth 2011 - 2020



STEP 1	STEP 2	STEP 3
<p>「にじゅうまるプロジェクト」への登録 国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J) では「愛知目標」の達成に向け、自分たちのプロジェクトと20の愛知目標との関連を宣言して行動する「にじゅうまるプロジェクト」を推進。 詳しくは http://bd20.jp/ へ</p>	<p>連携事業の認定 「にじゅうまるプロジェクト」の登録事業のほか、UNDB-J構成団体や関係省庁の関連する事業（認定後に「にじゅうまるプロジェクト」に登録）の中から連携事業を認定</p>	<p>認定されると… 認定連携事業は、UNDB-Jのウェブサイトや広報誌「Iki・Tomo」、報道発表、生物多様性全国ミーティング、生物多様性地域セミナーなどで紹介され、UNDB-Jロゴマークをパンフレットやウェブサイトで使用。</p>



推薦図書「生物多様性の本箱」 の選定・寄贈

生物多様性の理解や普及啓発、環境学習にも資する図書等を推薦ツールとして選定し、積極的な広報を実施。2013年3月にUNDB-J推薦「子供向け図書」（愛称：「生物多様性の本箱」～みんなが生きものをつながる100冊～）を選定。



経団連自然保護協議会ほか、企業の支援で全国47都道府県に1カ所以上、58セットが寄贈された。



グリーンウェイブ

生物多様性条約事務局の呼びかけで、国際生物多様性の日(5月22日)に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行い、世界に「緑の波」を広げる。

UNDB-Jは、環境省、農林水産省、国土交通省とともに、毎年3月1日から6月15日までグリーンウェイブ活動への参加を呼びかけた。

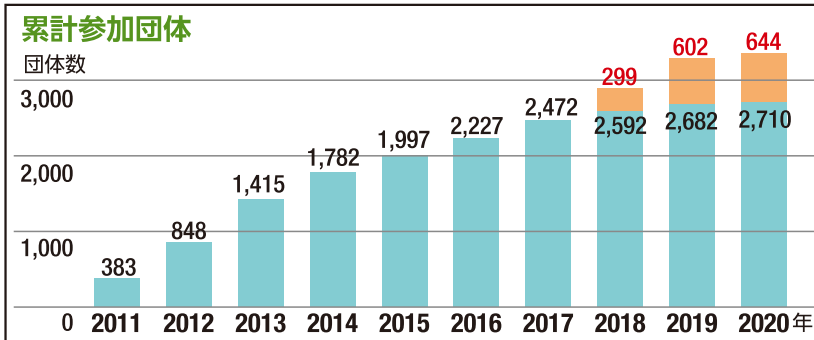


■ オフィシャル・パートナー

2018年から「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーの任命を実施し、13団体をパートナーとして任命。2018年～2020年はパートナーを中心として活動の促進がなされた。

■ 10年間の成果

2011年から2020年にかけて、累計参加団体数は3374団体、累計参加人数は約26万人、植樹本数は約33万本に達した。2020年も、コロナ禍に見舞われつつ活動が継続された。



意見・情報の交換

生物多様性全国ミーティング

生物多様性地域フォーラム

委員会に参画している様々なセクターが一堂に集い、委員会が推奨する認定連携事業の取組等の発表を行うとともに、相互の連携を深めることを目的に実施。



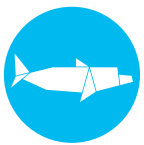
広報

地球生きもの応援団

生物多様性キャラクター応援団

生物多様性マガジン [Iki・Tomo]





国連生物多様性の10年の日 ~UNDB DAY~ ユースの国際会議参加・国際的な情報発信

「国連生物多様性の10年」(UNDB)の推進、愛知目標達成のための行動を呼びかけるため、環境省、UNDB-J、生物多様性条約(CBD)事務局主催で一日がかりのイベントを実施。COP12韓国 ピョンチャン、COP13メキシコ カンクン、COP14エジプト シャルム・エル・シェイクで3回開催。生物多様性分野の国際舞台に日本のユースが参画するため国際会議派遣を支援。2016年からのべ10人が、COPや準備会合に参加し、国際会議での議論をレポートし発信した。



要確認



せいかりレー

目的: 10年間の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組や成果等の共有・発信
⇒ 自然と共生する世界の実現に向けた2021年以降の取組につなげる
⇒ これまでの10年間の日本の取組の成果として発信(COP15等)

期間: 2020年1月~2021年3月

対象: 生物多様性の保全及び持続可能な利用の普及・啓発に関するイベント



未来へつなぐ「国連生物多様性の10年」せいかりレー

キャンペーンロゴ
(イベント共通で使用)

コロナ禍でも
47件の登録



ワークショップ



普及イベント



観察会



シンポジウム

全国の生物多様性保全に関する取組をとりまとめ、2021年以降につないでいく

国内外[COP15 (中国・昆明)等]で発信

UNDB-J構成委員

■委員長

十倉 雅和(一般社団法人 日本経済団体連合会 会長)

○歴代委員長(一般社団法人 日本経済団体連合会 会長)

2011～ 米倉 弘昌 2014～ 榊原 定征
2018～ 中西 宏明 2021～ 十倉 雅和

■委員長代理

涌井 史郎 東京都市大学 特別教授

【学識経験者・有識者・文化人】

イルカ 国際自然保護連合(IUCN) 親善大使
岩槻 邦男 東京大学 名誉教授
小菅 正夫 北海道大学 客員教授
堂本 暁子 前千葉県知事、元 IUCN副会長

【関係団体】 * = Iki-Tomo推進事務局

●経済界

一般社団法人 日本経済団体連合会
公益社団法人 経済同友会
日本商工会議所
公益社団法人 日本青年会議所
一般社団法人 大日本水産会
全国漁業協同組合連合会
一般社団法人 日本林業協会
全国森林組合連合会
全国農業協同組合中央会 (JA全中)
全国農業協同組合連合会 (JA全農)
一般社団法人 日本旅行業協会

●保全・普及啓発団体等

国際自然保護連合日本委員会 (IUCN-J) *
公益社団法人 日本植物園協会
公益社団法人 日本動物園水族館協会
公益財団法人 日本博物館協会
国連生物多様性の10年市民ネットワーク
一般社団法人 CEPAジャパン*
生物多様性わかものネットワーク
一般財団法人 自然公園財団
SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク
公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS-J) *
地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)
公益社団法人 国土緑化推進機構*
公益財団法人 山階鳥類研究所

●地方自治体

生物多様性自治体ネットワーク

【関係省庁】

外務省
文部科学省
農林水産省
経済産業省
国土交通省
環境省

【後援団体】

一般社団法人 日本新聞協会
一般社団法人 日本民間放送連盟

【事務局運営】

一般社団法人 環境パートナーシップ会議

ご協力各社

UNDB-Jの活動は、UNDB-Jの活動の趣旨に賛同し活動へのご支援・ご寄付をいただける個人・企業・団体 (UNDB-Jサポーター) や、各事業への協賛企業、協力団体によって支えられてきました。ここにご紹介し、感謝申し上げます。

■UNDB-J サポーター 寄付協賛者一覧



積水樹脂株式会社



経団連自然保護協議会



株式会社ダイフク



サカタインクス株式会社

山本喜昭氏

【生物多様性の本箱寄贈プロジェクト支援】

エイピーピー・ジャパン株式会社
キヤノン株式会社
清水建設株式会社
住友林業株式会社
積水化学工業株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大和リース株式会社
東レ株式会社
トヨタ自動車株式会社
DOWAホールディングス株式会社
日本製鉄株式会社
株式会社日立製作所
前田建設工業株式会社
三菱ガス化学株式会社
三菱商事株式会社
森ビル株式会社
経団連自然保護協議会

■生物多様性アクション大賞

共 催: 一般財団法人セブンイレブン記念財団
協 賛: 前田建設工業株式会社
セキスイハイム
株式会社JTB
森ビル株式会社
キリン株式会社
特別協力: 公益社団法人国土緑化推進機構
経団連自然保護協議会
協 力: 富士フイルム株式会社
株式会社オルタナ

■グリーンウェイブ オフィシャルパートナー

積水化成品工業株式会社
カシニワ・フェスタ2018実行委員会・一般財団法人柏市みどりの基金・柏市
公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)
公益財団法人 オイスカ
名古屋市
特定非営利活動法人 子どもの森づくり推進ネットワーク
ワタミ株式会社
公益財団法人 静岡県グリーンバンク・静岡県
アースデイいのちの森2019実行委員会・NPO法人響
SMBC環境プログラム NPO法人C・C・C富良野自然塾
ラムサール・ネットワーク日本
公益財団法人 イオン環境財団



UNDB-Jの後継組織としての 2030生物多様性枠組実現日本会議 (J-GBF) の設立

Japan Conference for 2030 Global Biodiversity Framework

■ J-GBFの設立

人間の暮らしを支える根幹である生物多様性を保全するには、単にその場の自然環境を守るだけでなく、生物多様性の恩恵を受ける社会全体で生物多様性の価値を理解し、守る行動をしていかなければなりません。

2011年から2020年までの「国連生物多様性の10年」は、愛知目標達成、生物多様性の主流化を目指して、「国連生物多様の10年日本委員会」(UNDB-J)として活動してきました。

30by30目標をはじめとする、ポスト2020生物多様性枠組等の次期国際目標・国内戦略の達成に向け、国、地方公共団体、事業者、国民およびNGOやユースなど、

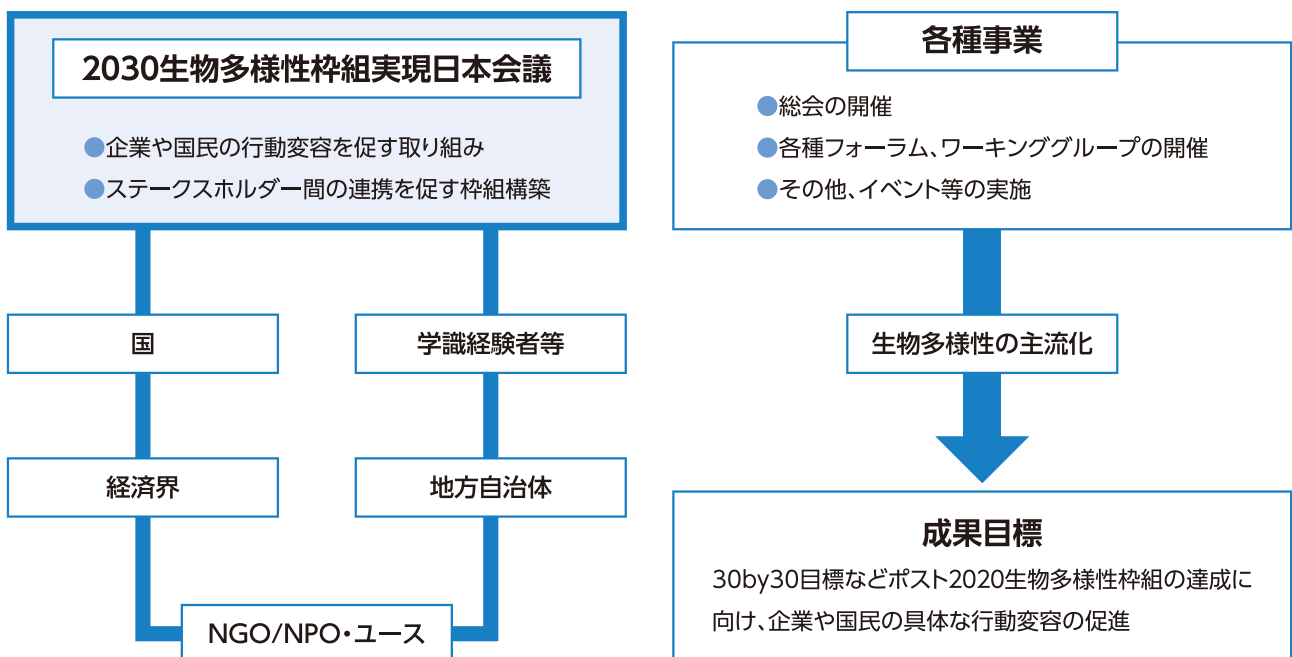
国内のあらゆるセクターの参画と連携を促進し、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進するため、UNDB-Jの後継組織として「2030生物多様性枠組実現日本会議」(J-GBF)を2021年11月に設立しました。

■ 2030生物多様性枠組実現日本会議 (J-GBF)の役割

30by30目標や次期国際目標・国内戦略の達成に向け、

- ・企業や国民の行動変容を促す取組
- ・ステークホルダー間の連携を促す枠組構築に取り組んでいきます。

J-GBFの概要





<http://undb.jp/>

事務局

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2

TEL : 03-3581-3351 (代表)

URL : <https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/>

E-Mail : shizen-suishin@env.go.jp